

令和8年熊本地震被災地に対する支援

●佐賀県からの支援状況

職員派遣数:30名(うち市町6名)	(8月5日現在)
・氷川町公民館(避難所支援)	10名(うち市町職員4名)
・氷川町役場(リエゾン)	6名
・氷川町役場(保健師等)	4名
・熊本県災害対策本部(リエゾン)	2名
・建築危険度判定職員	4名(うち市町職員2名)
・DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)	4名(県医師2、保健師2)

※ 氷川町への支援の延べ人数は164名(県114名、市町50名)

- ・28日18:00～ 熊本県へリエゾン2名派遣
→ 熊本県災害対策本部(熊本県庁)にて情報収集、調整等業務
- ・29日 6:25～ 氷川町へリエゾン2名派遣
8月1日～ 総括支援員3名(三角局長)追加
3日～ リエゾン1名追加
→ 氷川町役場にて支援業務6名体制
- ・29日 21:30～ 避難所運営4名派遣
31日～ 2名(佐賀市(1)、唐津市(1))追加
8月3日～ 4名(県(2)、鳥栖市(1)、小城市(1))追加
→ 氷川町公民館で運営業務10名体制
- ・30日 物資支援
トイレカー1台、避難所トイレ資機材10個(4,200回分)
通信確保機材(スターリンク)2台

- ・31日 厚労省要請による保健師等派遣(氷川町)
→保健師2名、栄養士1名、業務調整員1名
(期間)7月31日～9月30日
- ・8月1日 被災建築物応急危険度判定士派遣
→県(技術)職員2名、佐賀市職員2名
(期間)8月1日～8月17日
全国被災建築物応急危険度判定協議会からの要請
- ・8月3日 厚労省要請による DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)
派遣(宇城保健所)
→保健所医師2名、保健師2名
(期間)8月3日～8月16日

●CSO(18団体)が支援活動

SPF、おもやい、Public Gate 合同会社、佐賀青年会議所、唐津青年会議所、パトラン SAGA、佐賀レスキューサポート・バイクネットワーク、さがひな市、佐賀未来創造基金、ピースボート災害支援センター、シビックフォース、日本レスキュー協会、ピースウィンズジャパン、ジャパンハート、グッドネーバースジャパン、日本カーシェアリング協会、難民を助ける会、テラ・ルネッサンス

●佐賀県内市町からの支援

- ・みやき町:内閣府要請によりトイレカー2台、トイレトレーラー1台を氷川町へ支援
- ・神埼市:シャワーテントを氷川町へ支援
- ・佐賀市、唐津市、佐賀西部水道企業団、佐賀東部水道企業団:
日本水道協会九州地方支部の要請により、給水車派遣
- ・佐賀市:日本水道協会九州地方支部(福岡市)の要請により、佐賀市職員(2名)、管工事協同組合職員(6名)を熊本県甲佐町へ派遣
- ・佐賀市、唐津市、鳥栖市:九州山口ブロック下水道対策本部(福岡県)の要請により、下水道技術職員を宇土市へ派遣
- ・伊万里市:災害時相互応援協定により菊池市(2名)、嘉島町(2名)及び給水車派遣

●その他支援活動

- ・DMAT(災害派遣医療チーム)派遣:県内7医療機関(佐賀大学、好生館、嬉野医療病院、白石共立病院、やよいがおか鹿毛病院、公立佐賀中央病院、伊万里有田共立病院)
- ・DPAT(災害派遣精神医療チーム)派遣:神野病院
- ・日赤佐賀県支部派遣:唐津市赤十字病院医師等を派遣
- ・厚労省要請による災害支援ナース派遣:県内病院看護師
- ・JMAT(災害医療チーム)派遣:佐賀県医師会(山元記念病院)